

食糧学院 創立 80 周年にあたり感謝のことば

教職員、学校関係者皆様のご尽力により、お陰様で「食と栄養」一筋に、学校開設 80 周年創設構想 94 年を迎えることが出来ました事を誇りに存じます。

開学以来、幾多の困難に遭遇した危機を乗り越えて今日があり、本学院を導きご支援くださった多くの方々や歴代の理事、評議員、校長、教職員、同窓会（学友会）皆様の努力とご協力の賜物と痛感しております。本学院に携わっております教職員、講師の先生方及び関係者皆様に、深く感謝の意を表し、心より御礼を申し上げます。

食糧学院創設の建学に込められた情熱と苦労を改めて会得することにより、現状打開の頑張りが不足かと反省の至りです。温故知新の意味で創設期に立ち返り、諸先輩の志と意気を認識し、教職員一同で協力し未来を切り開く活力にお役に立てることを切望します。

理事長・学院長 佐藤 浩

I. 食糧学校創設母体

学校法人食糧学院の前身である食糧学校は 1939 年（昭和 14 年）4 月 20 日に開校されて 80 周年になります。

本学院の生みの親である糧友会は 1925 年（大正 14 年）12 月 25 日に国策で財団法人として誕生しました。「糧」という字は、今日では古めかしい印象を与えますが、糧友会の糧という字は大正、昭和、平成と継承して、今日の令和の時代に至っておりまます。本学院の歴史の古さと食の源の偉大さを物語った大切な字であります。



学校創設の功労者 渋沢 栄一 像

<糧友会>

糧友会の国策事業目的は、食糧資源の開発や利用拡充の研究、国民の栄養改善や体力向上に関する研究等ですが、この目的の中で「食糧に関する教育機関の設立と研究機関に援助する」の項目があります。渋沢栄一子爵が率先して官界の協力を得て食糧学校開学に尽力されました。糧友会の機関誌「糧友」は大正 15 年 2 月より刊行され、昭和 20 年までに延べ 29 巻発行された。



開校時の校旗是

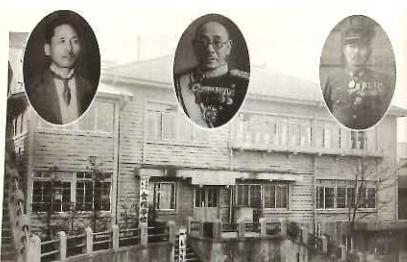
2. 食糧学校開校式

東京本郷区真砂町に食糧教育機関として、昭和 14 年 4 月 20 日、満開の桜日和に開校式を挙行しました。

-開校式次第-

- ・皇居遙拝
- ・君が代斎唱
- ・学校長勅語奉読
- ・校長式辞・学監経過報告
- ・来賓祝辞
(陸軍大臣、文部大臣、厚生大臣、海軍經理学校長、陸軍糧秣本廠、東京府知事、東京市長)
- ・初代校長-三井清一郎
(貴族院議員、陸軍主計中將、糧友会会長)
- ・学監-丸本彰造 (陸軍主計少将、糧友会理事長)
- ・顧問-鈴木梅太郎
(ビタミンB1第一発見者、東京帝国大学名誉教授)

当時の栄養、食糧、調理関係の第一級の教授陣を含めて、教職員数は 85 名の陣容で開学しました。栄養科・罐詰科・調理科・製パン科の 4 学科で開学しました。



中央:三井 清一郎（初代理事長）/ 左:鈴木 梅太郎（顧問）
右:丸本 彰造（学監）

3. 新宿角筈校舎に移転

昭和 16 年 1 月に本郷から新宿角筈の新校舎に移転、陸軍省の設計監督で広々とした校地に「糧友会設立食糧学校」の看板が、20 メートルの煙突に記されて人目を引きました。井伊家の下屋敷の土地 3,319 坪を校地として糧友会より提供。5 月 24 日には東条英機陸軍大臣が学校を視察し、教職員と学生の前で訓示を行い、新聞・ラジオで大きく報道されました。しかしながら、昭和 20 年 5 月 25 日の夜半 22 時 30 分頃から始まった東京空襲で校舎は焼失し、女子学生が犠牲になってしまいました。



学徒奉仕の腕章

4. 学校疎開と復興再開

校舎焼失の5日後、学生疎開（北小金一小諸）し、勉強に教練に厳しい不自由な生活を続け、そして終戦を迎えました。昭和20年9月27日の理事会で学校再開することを決議し、母体である糧友会、食糧協会は旧陸軍に依存していたため解散になり、自力で設立着手。設立委員には軍関係色を払拭した学識者を選出し（入江魁、大森憲太、伊藤一郎、等先生方）、旧食糧学校の使命であった栄養士教育のための学校を再建目標に、官庁の後押しもあり奮闘しました。昭和21年1月26日、世田谷区池尻旧陸軍の馬糧倉庫を校地及び仮校舎として授業を再開し、教授には有本邦太郎、原実、大森憲太、藤巻良知、芦沢千代等の権威ある先生方が熱心に講義をしました。3月20日、旧食糧学校の最後の卒業式は、173名の学生に校長名が空白の卒業証書が交付された。

3月29日、文部大臣より食糧学校の設立が認可され、4月22日、理事長、校長に入江魁旧糧友会理事が就任し、東京都長官より認可されました。



復興の祖 入江 魁理事長



日本料理試食会

5. 食糧学校振興会の結成

戦後の復興期には経営危機に遭遇し、貴重な財産である新宿角筈の旧校地を手離しました。また、母校の危機を開拓する一助として第1期から第9期の卒業生代表等が発起人となり「食糧学校振興会」を結成し、母校興隆に必要な基金の募集を全国的に展開しました。学校当局も建学以来の伝統と社会的使命を消し去ることは出来ないと学校存続のため苦しい学校経営に情熱を注ぎました。

また、昭和24年9月に池尻校地の1,855m²を関東倉庫に割譲して財源を確保し、経営危機から逃れ、関係者の努力で今日の礎をつくりました。



教練

渋沢栄一の格言

40、50は漢垂れ小僧、
60、70は働き盛り、
90になって迎えが来たら、
100まで待てと追い返せ

夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
…中略…
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし

6. 栄養士法・調理師法の制定

栄養士規則と栄養士養成所指定規則は昭和18年で、戦中の世相は苛酷を極めており、実をあげずじまいがありました。

昭和22年12月、新栄養士法が制定され、養成施設は全国で僅か18施設ありました。昭和25年に栄養士法が改正され、1年制から2年制に改められました。栄養士の業務が学術的に認識され、1年制では不十分と考えられたためでした。

（現在の栄養士養成施設－全国計273校、専門学校31校、大学144校、短大98校）

調理師法は昭和33年5月に制定（現在の調理師養成施設－専修学校154校、高校112校、他短大等17校 全国計283校）



第1期生学生

7. 学校名称変更の変遷

昭和27年、校地の払い下げ許可のため財団法人食糧学校から学校法人食糧学校に変更、昭和32年に法人名を食糧学院、学校名を東京栄養食糧学校と改名、昭和35年4月 東京調理師学校夜間



学生授業

部開学、昭和41年4月 昼間部開学、昭和51年に専修学校法が制定され、専門課程をもつ専修学校は校名に専門学校をつける事が認可されました。東京栄養食糧専門学校、東京調理師専門学校に校名変更。平成27年4月東京調理製菓専門学校に校名変更。

（専修学校昭和51年全国893校に認可、現在専門課程は2,806校、高等課程、一般課程の合計で3,160校）



調理実習

8. 学院系列校の閉校

時代の移り変わりで、誠に遺憾ながら断腸の想いで閉校になりました。教育は脈々と受け継いで生かされております。

1、福山調理師専修学校（昭和55年～平成18年）

2、東京調理ビジネス専門学校（昭和59年～昭和63年）

⇒東京ホテル・レストランカレッジに改称（昭和63年～平成2年）

⇒専門学校東京ホテル・トラベルカレッジに改称（平成2年）

⇒東京ホテルビジネス専門学校（平成11年～平成26年）

新紙幣の新しい顔へ

新しい1万円紙幣は渋沢栄一の肖像画に変わります（2024年を目途）

卒業生同窓会の変遷

学友会（昭和15年）→校友会（昭和16年～昭和30年）→食糧学校同窓会・瑞穂会（昭和30年～平成19年）→学友会（平成20年～）